

令和7年度シラバス（国語）

学番 中等1 新潟県立村上中等教育学校

教科(科目)	国語（論理国語）	単位数	2単位	学年（系）	5学年（文系理系共通）
使用教科書	「精選 論理国語」（数研出版）				
副教材等	・『論理国語 学習課題集』（数研出版） ・理解を深める現代文単語 評論・小説 改訂版（桐原書店） ・品詞別 頻出漢字マスター3000（尚文出版） ・共通テスト対策 国語完答32（尚文出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①幅広い教養を身につけ、他者と協働しながら、粘り強く挑戦し続け、地域社会や国際社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成します。 ②主体的、自律的な人間として、行動力にあふれ、自他を大切にする思いやりの心とリーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。 ③主体的に学ぶ力を身に付け、社会における課題等に気づき、創意工夫、試行錯誤を重ね、その解決のために行動できる人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、発達段階に応じて1・2年を「基礎の充実」、3・4年を「発展・挑戦」、5・6年を「自律・深化」に分け、学習内容の確かな定着、主体的で対話的な学習態度の育成を図りながら次の教育活動を展開します～ ①総合的な応用力、学問への探究心を育むとともに、知識や技能を活用するための思考力、判断力、表現力を育成する課題解決型の授業を実施します。 ②他者とコミュニケーションを取りながら、地域社会や我が国の魅力を国内外に発信できる知識・技能等を高めるための学習活動を実施します。 ③身に付けた力を社会で発揮するため、地域貢献活動、社会体験活動への参加を推進します。 ④自己肯定感を高め、他者を思いやり、多様性を理解する態度等を育成するため、系統的な特別活動や学年を超えた多様な体験活動を実施します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- ② 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ・漢字・語句等の基礎的な語彙力を養い、正確な読解および適切な表現のための能力を高める。
- ・論理的な文章の学習を通じて、論の展開や要旨を的確に理解する力を養う。
- ・文学的な文章の学習を通じて、登場人物の人物像や心情、作品のテーマを読み取る力を養う。
- ・表現の基本的な事項を指導し、自ら適切な表現をすることができる力を高める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う能力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、小テスト ・ノート、ワークシート、発表内容、意見文、提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、小テスト ・ノート、ワークシート、発表内容、意見文、提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、小テスト ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	具体と抽象	読む 6時間	「手の変幻」 清岡卓行	・文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考え方に対する自分の考えを述べる。 ・逆説的な表現の内容を理解する。	3	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
			「『具体』から『抽象』へ」 森 博嗣	・言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の主張を踏まえ、事物を抽象的にとらえることの利点がわかる具体的事例を日常生活の中から考える。	3	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
5	普遍的な言葉	読む 3時間	「国境を越える言葉」長田 弘	・言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ・外国の言葉や表現を選び、それが表す概念とともに紹介する。	3	ワークシート (記述の点検)
		読む 1時間 書く 2時間	「ニュースとコミュニケーション」	・対談の文章を読み、話し手それぞれの考えの共通点を読み取る。 ・「桶」という比喻に込められた意図について考える。	3	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
6	近代と現代の視点	読む 3時間 書く 2時間	「未来世代への責任」岩井克人	・環境問題についての筆者の考えを読み取る。 ・「未来世代への責任」という題で自分の考えを書く。	5	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
			定期考査		1	

	6 7	近代と現代 の視点	読む 4時間	「科学・技術の 歴史の中での社会」村上陽一郎	・科学・技術の歴史を読み取り、『道具』としての意味合いを持った科学」の内容を的確にとらえる。 ・科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。	1 1	ワークシート (記述の点検)
			読む 7時間	「こころ」 夏目漱石	・「こころ」などの漱石の著作を読み、近代について理解を深める。		ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
	9	情報と社会	読む 3時間	「弱いつながり」東浩紀	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・筆者の言う「弱い絆」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。	3	ワークシート (記述の点検)
	10			定期考査		1	
			読む 2時間 書く 3時間	「消費されるスポーツ」多木浩二	・「メディア」と「スポーツ」の関係から活動の総体としての「社会」を導くという文章展開をとらえる。 ・文章中の比喩表現や強調表現の内容を理解する。 ・文章内容を WEB 記事の内容と関連づけて考察する。	5	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
	11	思考の枠組み	読む 3時間 書く 4時間	「野生の『クジラ』と人間の『鯨』」関陽子	・自然の「普遍的価値」「多元的価値」と、筆者の考える〈環境倫理〉〈環境道徳〉の内容を読み取る。 ・筆者が危惧する現代社会の「食」について具体的な例を挙げて説明する。	7	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
				定期考査		1	
	12	考えの表出	読む 2時間 書く 5時間	「胆力について」内田樹	・筆者の逆説的言説を理解したうえで、異なる事例を考え、論理的に説明する。	7	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
	1		読む 3時間 書く 4時間	「日本語は非論理的か」野矢茂樹	・筆者が言葉の使い方について「論理的」「非論理的」と表現する内容を理解する。	7	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
	2		読む 3時間 書く 5時間	「『いき』の美学」尼ヶ崎彬	・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解したうえで、現代の日本人の美意識について自分の考えを論じる。	8	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
				定期考査		1	

3		4時間	共通テスト対策 問題演習		4	
---	--	-----	-----------------	--	---	--

計73時間（48分授業）

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	B「書くこと」 25 時間	C「読むこと」 48 時間
-----------------	------------------	------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・ 読解や意見文などの課題の提出があります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。(指定図書の読書レポートなど)

7 担当者からの一言

「論理国語」での評論は、現代あるいはそこに生きることにに関する問題を扱っています。筆者の主張を的確に読み取り、それによって自己の考えを深めることが大切です。その上で設問に応じた解答が出せるように練習しましょう。また、副教材で小説も学習します。普遍的なテーマと美しい表現を理解することで自らの文章力に生かしましょう。日頃から読書を心がけ、この時代がどういう時代なのかアンテナを張り巡らせ、情報に敏感であってほしいと思います。

（ 担当：臼木 妙子 ）